

# たが

こんにちは   
議会です!!



すくすく育て 子ども苗も

- ・ 6月定例議会 ..... 2
- ・ 臨時議会 ..... 3
- ・ 各常任委員会報告 ..... 3
- ・ 一般質問 5議員が問う ..... 5
- ・ がんばってます ..... 10

## 第114号

平成19年7月20日発行  
発行 多賀町議会  
編集 広報発行対策特別委員会

滋賀県犬上郡多賀町大字多賀324  
〒522-0341 TEL0749 (48) 8126  
FAX0749 (48) 0157  
有線 2-2011

ホームページ <http://www.tagatown.jp>  
E-mail [gikai@tagatown.jp](mailto:gikai@tagatown.jp)

# 町内企業の業績好調により 法人町民税 1億2000万円追加計上

6月定例会は、6月13日1日限りの日程で開かれた。承認4件、報告7件、条例改正3件、その他2件が原案どおり承認、可決された。継続審査中であった請願1件は、不採択と決した。

## 専決

平成18年度補正予算

### ◎一般会計

2億3859万円を追加。

### ◎歳入の主なもの

法人町民税 1億2283万円  
地方交付税 4708万円  
繰越金 4280万円

### ◎歳出の主なもの

財政調整基金積立 2億6000万円  
減債基金積立 8000万円

### ◎国民健康保険特別会計

5711万円を減額。

### ◎老人保健事業特別会計

5278万円を減額。

## ◎介護保険事業特別会計

3759万円を減額。

## 町道路線の認定

路線番号 2060  
路線名 尺仏支線  
以前より大字藤瀬区より町道認定の要望があったが、要件を満たしたため町道として認定した。

## 請願

労働法制を改善するのではなく、改善するよう国に求めて下さい。(請願書)  
継続審査となっていた請願は、本会議にて賛成少数により不採択とした。(賛成5反対6)

## 新議員紹介



西澤義雄 67歳

J A東びわこ経営管理委員、多賀町農業委員、地元木曾の特定農業者団

体「グリーンファーム木曾」の組合長を勤め、地域の農業振興に励んでいます。  
自然豊かな多賀町の資源を生かし農林業の再建と振興を図り、合併に頼らない自立のまちづくりを目指します。

自分を偽らず正確な情報を得て、正しい判断・行動をモットーに、町民の皆さんとともに知恵と汗を結集して、多賀町に住み続けられる住み続けたい福祉のまちづくりのために、力を合わせてがんばります。



藤本一夫 66歳

私は芹谷の河内出身で、現在、久徳で飲食店を営み30年になります。

本名で呼ばれるより屋号の「与力」でよばれる方が多いくらいです。議員として何ができるのか自問自答しています。が、直面している「芹谷ダム」建設に向けて、住民の方々の代弁者としてお役に立ちたいと考えています。

自分勝手な考えで、芹川氾濫被害は県の試算によると2036億円で、ダムを建設することで906億円に抑ええることができる。と新聞報道されてきました。早期実現に向けて努力したいと考えています。



若林幸雄 61歳

県外にて大手建材メーカー・設計事務所勤務後、家の後を継ぐため敏満寺

に帰ってきました。その後独立し、建築士事務所を構え30年以上になります。税源移譲等で住民が町に直接納める税金が多くなる分、町政への関心をより高めていく必要があると思います。また、活力と誇りの持

てるまちづくりのために、町基本構想の多くの課題を確実に進めるとともに、見直すべき所は見直し、一層の活力を求めていきたいと思っています。町発展のため少しでも役立てるよう尽力致します。

# 総務

## 閉会中の審議

開催日

平成19年5月15日

教育委員会所管

教育基本目標

たくましい力と心豊かで品格ある人づくり  
推進的取組み

一、確かな学力をほぐくむ教育。  
一、たくましく生きるための健康や体力の育成。

一、教師力を高める教職員研修など。

問 多賀中学校の給食について、十分な検討を。  
答 検討委員会の委員を選任したい。

# 産業建設

## 閉会中の審議

開催日

平成19年5月18日

建設課所管

平成19年度建設課所管町土木事業

左表参照

## 平成19年度建設課所管町土木事業

事業種目	番号	路線名等	地先
改良	1	小森池線	富之尾
	2	残土処分地立木伐採	敏満寺
	3	中川原中央線	中川原
	4	車戸団地一号線	多賀
	5	佐目南後谷線	南後谷
	6	大杉二号線	大杉
舗装	7	敏満寺高宮線	敏満寺
	8	中川原工業団地一号線	中川原
	9	四ツ屋胡宮線	多賀
	10	敏満寺富之尾線	敏満寺
里道舗装	11	富之尾地区	富之尾
	12	川相地区	川相
	13	河内宮前地区	宮前
	14	一円地区	一円
集落排水	15	多賀地区	多賀
	16	土田地区	土田
	17	八重練地区	八重練
	18	霜ヶ原地区	霜ヶ原
	19	大君ヶ畑地区	大君ヶ畑

別表2 小森池線全体計画予定

年度	工事延長	事業費	摘要
平成16~18	700m	4億3300万円	用地物件補償
平成19	100m	1億2100万円	橋梁含む
平成20~21	750m	8000万円	
平成22	70m	8000万円	小森池川2カ所ボックス施工
平成23~25	780m	8億8600万円	国道306号線に接続計画
計	2400m	16億円	合計10年間

問 道路改良で、小森池線全体計画の年度予定は。  
答 別表2参照

問 小森池線の残土処分地の購入価格は。  
答 処分地の工事の実施方法は、処分地約26000m<sup>2</sup>を約2500万円で購入した。工事については、国道306号線接続寄りオープンカット付近の伐根処分を併せ、入札、実施する。

## 臨時会

平成19年5月10日臨時会を開催し、選任2件、推選2件、専決処分4件、請負契約1件を可決した。

### 選任・推選

総務常任委員

藤本一夫

産業建設常任委員

若林幸雄

西澤義雄

ダム対策特別委員会委員

若林幸雄

藤本一夫

西澤義雄

彦根市、犬上郡宮林組合

議会議員

藤本一夫

滋賀県後期高齢者医療広域連合議会議員

副町長 夏原昭夫

請負契約

町道小森池線佃川橋梁

新設工事

契約金額 6825万円

契約相手

八起建設工業株式会社

多賀営業所 田中浩司

## 全国学力テストの結果の公表は 児童生徒に通知し、 各校の比較も公表する

—教育長—

野村 吉晴 議員



**教育長**  
学力面では、ここ数年中間層の割合が減り、ふたごぶラクダのように、上下に二極化が進んでいる。

**野村議員**  
全国の小学校6年生と中学3年生の国公立の99%の学校が4月にテストを受けた。平成15年の41カ国が参加した学力テストでゆとり教育を契機に、日本の読解力が8位から14位に転落。このときの衝撃が全国学力テストの43年ぶりの復活につながった。文科省は、地域間の競争激化を引き起こすので、国全体と都道府県単位までとしているが、多賀町はどの程度公表するのか。

町政の  
ここが  
ききたい

—

一般

質

問



全国学力テストの結果は個人にも公表する

全国学力学習状況調査結果は9月に公表される。多賀町では、児童生徒にも通知し、全国平均と本町の各校との比較も公表する。全国平均に達しなかった教科は、長期休みなど活用して補充教育を行う。

## 農地・水・環境保全向上対策は 希薄になりつつある

地域の連帯感を一つに結束

—農林商工課長—

野村議員

農地や水利施設など、農村の地域資源を維持、管理する共同活動支援事業の実施期間は5年間である。集落活性化の起爆剤として期待している。

代表には組織のまとまりやすさから、自治会役員が就く例が全体の5割あるが、多賀町の現状は。地域協議会、滋賀県の設立数は。

交付金の国、県、町の割合と、多賀町の加入状況、今後の対策は。

農林商工課長

この事業は農業者のみでなく、地域ぐるみの活動が基本で、申請者の代表者名は、16集落のうち14集落が区長名である。滋賀県の地域協議会は、1県1協議会である。交付金の負担割合は国が4分の2、県が4分の1、町が4分の1。

加入状況は、16集落が加入し、営農活動にも取り込む12集落がある。今後は、説明会やフォーラム開催、個別指導等予定している。

# あれからどうなった 一般質問その後

学童保育については、町施設を利用して早期に実施するよう、定例会の一般質問で再三出されてきた。

平成16年11月、閉園となった清涼保育園を清涼ファミリーステーションとして整備し、学童保育がスタートした。

開所時は、多賀小5名、大滝小1名であったが、本年6月現在、多賀小37名、大滝小5名が通っている。



放課後も楽しく過ごす学童保育

門前町にふさわしい道路として、側溝整備・電線の移設などによる景観整備が実現できるよう、一般質問でも出され要望されてきた。

平成18年3月に、多賀区が道路沿線住民代表を含めた「道づくり委員会」を立ち上げた。その中で、計画の実現を目指した議論が重ねられている。

本事業は県の単独事業として実施される。町としても、委員会との協議を進めながら、早期の実現に向け県へ要望していく。

「道づくり委員会」を立ち上げた  
多賀区とともに、早期の実現を目指す

門前町にふさわしい景観整備を

平成16年11月学童保育スタート  
清涼ファミリーステーションにて

学童保育の実施を



消雪装置に続く整備が待たれる門前町通り

## 中学校完全給食の一日も早い実施を 検討委員会で慎重審議する

—教育長—



山口 久男 議員

**教育長**  
中学校の給食実施を求める請願書は、十分検討するようにとの意見を付して採択された。これらのことを踏まえ、①6月21日教育委員会に、仮称多賀中学校給食検討委員会の設置に向けた協議を行う予定。②スケジュールは、検討委員会で慎重に審議する。③委員の選考は8名程度、PTA役員代表、学識経験者等。④調理方式は、センター方式等検討委員会にゆだね、種々協議する。

**山口議員**  
定率減税廃止と税源移譲の影響で6月から住民税が増えた。町税の増収分、税源移譲による町財政はどうなるか。増税等で、保育料の負担は増えている。保育料の引き下げを含む保育料徴収基準額の改定の考えは。定率減税全廃に加え、住民税非課税限度額の廃止により、介護保険料、国保税の値上げに影響する。高齢者負担の町独自の軽減策、負担に見合う福祉サービスの向上に努めべきだ。

**総務課長、福祉保健課長**  
町税、税源移譲、定率減税全廃等で町財政は、町税が増えると交付税が減少する仕組みだ。町税と交付税をトータル的に考えると675万円程度で大きな増収は見込めない。保育料は、所得階層に応じたこれまでの方法を改め、一律に2人目の保育料は2分の1、3人目以降は10分の1とし、本町の保育料基準額は国の8割に設定している。税制改正に影響を受けないよう適時改正している。高齢者の負担軽減は、金銭での援助だけでなく、さまざまな介護給付事業など、個人の状況に合わせた細かいサービスを展開している。今後もこうした支援について充実を図っていく。

## 住民が利用しやすい公共交通を 地域に合った公共交通に取り組む

—町長—



地域に合った公共交通を

**町長**  
現在住民全体から、外出頻度や手段、現状路線バスや自家用車への依存への考え等、調査項目を整理している。今後、調査結果や関係機関の意向等に基づき検討会議で協議を進め、先進地事例の研究を重ね、多賀町の地域に合った安全で便利な交通システムの構築に向けて取り組んでいく。

## 都市計画線引の見直しを 地域に合った開発に向け努力する

—企画課長—



若林 幸雄 議員

**若林議員**  
町活性化の阻害要因として、市街化調整区域の線引があげられる。最近では、全国的に見直しの動きがある。多賀町でも昭和46年決定から、1000人も人口が減少している。住宅、工場、店舗等建築規制が多く活性化のためにも集落周辺および国道の沿道、福寿橋から木曾、中川原まで調整区域の解除もしくは用途地域を変更してはどうか。

**企画課長**  
都市計画区域の設定は、自然的、社会的条件や人口、土地利用、交通量などの現況の推移を考慮して、一体の都市として総合的に整備、開発または保全する必要がある区域を線引きしたものである。市街化調整区域では、高度経済成長期当時の乱開発防止で一定の成果と役割を果たしてきたが、



地域に合った開発を

地域の活性化にある部分ブレーキをかけている懸念はある。306、307号線沿線の犬上川福寿橋から木曾、中川原間の市街化調整区域を市街化区域への変更は、多賀町の都市計画が彦根長浜都市計画区域の一部であり、町独自の変更はできない。5年に1回見直しのある多賀町都市計画マスタープランで、地域に合った開発に向け努力する。

## 地域振興策として道の駅設置を 広大な用地と費用、安定供給等の 課題克服が必要

—町長—

**若林議員**  
町の基本構想として、定住人口と交流人口を増やすことがあげられているが具体的には触れていない。多賀町の幹線道路307号線は、交通量も多くこれを資源として地域振興の起爆剤としての道の駅設置は考えられないか。運営面においては商工会、農協、森林組合等優れたノウハウをいかして活用できないか。町内の主な地点の交通量は。  
**町長**  
道の駅設置は、大きく2つに区分されている。道路管理者と設置場所の自治体が施設を整備する一体型と、自治体が単独で施設を整備する単独型がある。一定の条件が定められ、大型車の駐車を含む大規模な駐車スペースとトイレや案内所、レストランなどの休憩施設の設置スペースの確保等がある。広大な用地と多額の費用、年間を通して安定した供給など課題の克服が今後必要である。町内の主な地点の交通量は、平成17年度道路交通センサスで、1日の交通量は国道307号線敏満寺信号1万2300台、国道306号線多賀北信号1万2800台、佐目地先 2100台、四ツ谷地先 1200台、富之尾地先 2300台、県道大堀多賀線中川原名神高速西付近3500台

**山口議員**  
3千万円でコミュニティバスを運行しているが、便が少ないことやバス停までの距離が遠いことなどから利用促進につながっていない。まちづくりや福祉の重要課題として、住民参加で公共交通活性化に役立つ計画づくりが必要だ。住民アンケート調査などを行い、住民が利用しやすい地域公共交通システムの計画を。

# 広域の地域営農体制の確立を どのような誘導策と 支援ができるか検討する

—農林商工課長—

西澤 義雄 議員



## 西澤議員

担い手を中心とした新たな農政施策が本年より始まった。当町は集落規模も小さく担い手農家、担い手組織としての規模的要件もむづかしい。複数集落の連携による広域営農体制の確立、その枠組みの中にプロ的農家の育成、規模は少なくともやる気のある地域の担い手の育成。互に共存できる広域の地域営農体制の確立には、行政の指導および支援が必要ではないか。

## 農林商工課長

広域の地域営農体制の確立は、農業経営のスリム化のため、農機具の共同購入、共同利用、農作業の協業化など推進してきた。長年地縁という固い絆で結ばれた村で培われてきたしがらみの中で、農業という営みも継承され今日の各集落の自治であ



今後望まれる広域営農体制

町長、農林商工課長  
米の生産数量目標配分が県平均より低い結果となった原因は、数量の95%は基礎配分、残り5%は1等米比率と

環境こだわり米は徐々に増えているが、県下平均にまでは達していない。種子更新率は、他県主生産地は100%に近いが本県は70%台を推移している。平成22年度には90%達成を目標に定める。

り、地域営農体制である。広域的に連携していくとなると、困難もあるが、その高く大きいハードルを乗り越えて成功している例もあり、先進事例を参考にして、どのような誘導策があるか、またどのような支援ができるかなど検討する。

# 米の生産数量目標を高めよ 1等米比率など3項目とも 平均まで達していない

## 西澤議員

平成19年度末の生産数量目標、市町村配分で当町は県下最低の配分率を受け町水田農業推進協議会会長であった町長としてはどのように理解しているのか。

配分要素は1等米比率、種子更新率、環境こだわり米栽培の実績が基礎だが当町の取り組みがそのように低いと思えない。関係機関で調査、確認して原因究明し平成20年度には修正配分を要求すべきである。

## 町長、農林商工課長

米の生産数量目標配分が県平均より低い結果となった原因は、数量の95%は基礎配分、残り5%は1等米比率と

# 企業を知る学習の実施を 企業見学などを徐々に導入したい

—学校教育課長—

久保 久良 議員



## 久保議員

地域の特色を生かした学習は大滝小・多賀小でも活発に取り組まれ、故郷を愛する心を育てることにもつながっている。

また、多賀町には多くの企業が進出され、財政面において多大な貢献をされている。私はこれらの企業を知る機会を持つてほしいと思っている。企業や商工会の協力を得る学習のプログラムを作成し、社会科学等の授業で企業学習を実施できないか。

## 学校教育課長

小学校のうちから調査見学・体験を通して大人の考えを知る、社会について学ぶ、将来の夢を持つことが大切である。今後は、町内企業の理解を得ながら、企業見学や職場体験も導入し、徐々に拡大していけばと考えている。

# 保護者への配慮もしながら 弁当の継続を 弁当の重要性を感じている

## 久保議員

多賀中に給食を求める請願採択後、6カ月程度経過したが、給食をという声が保護者より聞こえてこない。給食よりも先生の増員・施設の整備など子どもを安心して預けられる環境の整備を望まれているのではないか。

また、卒業式での生徒代表のあいさつの中で、弁当に対して感謝の気持ちを述べていた。中学・高校と行くにつれ親と子の距離が離れていく中で、弁当が親と子の絆を深め弁当の果たす役割は大きいと思う。以上のことから、保護者への配慮もしながら弁当を継続すべきと思うが。

## 町長

全国的に見て、親と子の絆が薄くなっている今、中学生を親の愛情の中で育ててほしいと願っている。親・家族の愛情によって健全な子どもが育っていく。そのようなことから、弁当の重要性を感じている。

また、10代の青年より弁当を続けてほしいとの町長への手紙が寄せられている。



地域に根ざした体験学習

# きめ細かい教育への投資を 教育環境を整えるよう 町としても努力する

—町長—

## 久保議員

多賀中では、19年度2学級減となり先生が4名減となった。そのしわ寄せが少人数授業にきている。少人数授業により全体のレベルが上がっている時、優先的に町費で先生を増員する予算措置をすべきである。

このように、きめ細かい教育への投資が保護者の行政への信頼感につながる。このことが本町の最大の課題である少子化に歯止めをかけられるのではないか。

## 町長

教育は人づくりであり、将来の多賀町を担う若者を育てるうえでも、すばらしい教育環境をつくるのが行政の責務である。県が提唱する数学・英語・理科できめ細かい指導ができるよう、県にも要望を出すとともに町としても努力したい。



サウンドフェロー（健全な仲間）  
家族と一緒にグランドゴルフを楽しみました

60歳以上のソフトボール大好き人間が集って、11年前に発足しました。メンバーは現在、24名で月2回の練習に汗を流し、年4回の連盟のシニア大会に出場しています。

行っています。私たち高齢者が主体となっていく、異世代による交流が地域貢献、社会活動として認められ、ニッセイ財団の「生き生きシニア活動」の表彰を受けました。

田中市夫記

# がんばってます！



つくしの会  
おはぎづくりにはげみました

アツと言う間に、シニアサークルとなりました。ボランティア「つくしの会」の活動です。まちづくり・地域づくり活動に、会員30名で奉仕しています。毎月第2月曜日に例会をして、第3水曜日は杉の子作業所でおやつ作り。また、地域こども教室・通学合宿もお手伝いしています。6月のおやつ作りは、

草餅です。毎回50名分作ります。昔私達の子どもの頃のおやつです。

おはぎ・みたらし団子・白玉だんご・あんみつ・どらやき・焼だんご・蒸しパン等を4〜5名の順番で作っています。いままでに家で食べたことがない珍しいと、好評をいただいています。これからも昔のことを思い出して作って、喜んで貰うようがんばります。

清水文字記

## 編集後記

最近、絵馬通りを歩いてみました。多賀大社前駅の前の公園には大小2つの石のモニュメントがある。この門をくぐりぬけ、絵馬札に願いを書いて石にのりで貼ると「願い」が叶うという。多賀発しあわせがここから始まるのだ。今後絵馬札は絵馬通りの商店に置くとのこと。

また多賀大社では30年ぶりに平成の大造営竣功奉祝神賑行事が10月14日の遷座式を皮切りに10月28日まで予定されている。

それに合わせて、町あげてお祝いしようとして「国生み祭り」実行委員会がイベント計画中です。10月は大変賑やかになりそうです。

土田雅孝記